

宝塚市工事成績評定の実施要領

(目的)

第1条 この要領は、宝塚市が発注する請負工事の成績評定（以下「評定」という。）に関し必要な事項を定め、厳正かつ的確な評定の実施を図り、もって請負業者の適正な選定及び指導育成に資することを目的とする。

(評定者)

第2条 評定を行う者（以下「評定者」という。）は、宝塚市契約規則（平成22年規則第9号）第37条に規定する検査員及び監督員とする。

(評定の方法)

第3条 評定は、監督又は検査により確認した事項に基づき、工事ごとかつ評定者ごとに独立して、的確かつ公正に行うものとする。

2 評定は、宝塚市請負工事の検査に関する規程第2条第1号に規定する完成検査のとき、及び同条第2号に規定する部分完成検査のとき、それぞれ行うものとする。

3 部分完成検査を行った工事の完成検査の評定に当たっては、当該部分完成検査の評定結果を考慮して行うものとする。

4 評定は、次の各号に掲げる工事の区分に応じ、当該各号に定める工事成績採点表（以下「採点表」という。）に基づき行うものとする。

(1) 設計金額500万円以上の工事 工事成績採点表（別記様式第1）

(2) 設計金額130万円以上500万円未満の工事 少額工事成績採点表（別記様式第2）

(3) 設計金額130万円未満の工事 工事成績採点表（小工事）（別記様式第3）

(評定結果の提出等)

第4条 評定者は、評定を行ったときは、遅滞なく、作成した採点表を契約課長に提出するものとする。

(評定結果の通知)

第5条 契約課長は、評定者から採点表の提出があったときは、設計金額500万円以上の工事の請負業者に対して、遅滞なく、工事成績評定通知書（別記様式第4）により、評定の結果を通知するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、契約課長は、必要があると認めるときは、設計金額500万円未満の工事についても、工事成績評定通知書により、請負業者に通知することができる。

(説明請求等)

第6条 前条による通知を受けた請負業者は、通知を受けた日の翌日から起算して14日以内に、当該通知の内容について書面により説明を求めることができる。

2 前項の書面には、請負業者の所在地、名称、代表者の氏名、工事名及び説明を求める内容を記載し、契約課長に提出するものとする。

(説明請求に対する回答)

第7条 契約課長は、当該工事の施工を主管する課長と協議の上、前条第1項の規定による説明の求めを受けた日の翌日から起算して14日(次項の規定にする工事成績評定審査委員会に意見を求めるために要する期間を除く。)以内に、工事成績評定に係る説明書(別記様式第5)により、回答するものとする。

2 契約課長は、前項の規定により回答する場合において必要があると認めるときは、別に定める宝塚市工事成績評定審査委員会に意見を求めることができる。

(評定の修正)

第8条 評定者は、必要があると認めるときは、当該評定を修正し、契約課長に修正した採点表を提出するものとする。

2 契約課長は、前項により評定者から修正した採点表の提出があったときは、当該工事の請負業者に対して、その修正結果を工事成績評定修正通知書(別記様式第6)により通知する。

(評定結果の公表等)

第9条 契約課長は、第5条第1項による通知を行った請負工事については、請負工事成績評定点一覧表(別記様式第7)を作成するものとする。

2 前項に規定する請負工事成績評定点一覧表は、4月、7月、10月及び1月に、それぞれの月の4箇月前から前々月までの3箇月の間に作成されたものを契約課の窓口等において公表する。

3 公表の期間は、当該工事の請負業者に第5条第1項の規定による通知を行った年度の翌年度末までとする。

(評定の省略)

第10条 電気、ガス、水道又は電話の引込工事等で契約課長が必要がないと認めたものについては、評定を省略することができる。

(委任)

第11条 この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この要領は、平成29年8月1日から適用する。
- 2 この要領の適用前に契約した請負工事については、第5条から第9条の規定は適用しない。

土 木 工 事 成 績 採 点 表

部

課

平成	年度	整理番号		工事番号		施工場所	宝塚市										地内				
工 事 名						工 期		平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日													
請負金額		¥				完成年月日		平成 年 月 日			検査年月日		平成 年 月 日								
請負者名					現場代理人					主任技術者						監理技術者					
考 査 項 目 ※1				主任監督員					総括監督員					検 査 員							
				職名 氏名 印					職名 氏名 印					職名 氏名 印							
項 目	細 別	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e					
1. 施工体制	I. 施工体制一般		+3.0	0	-3.5	-7.0															
	II. 配置技術者	+6.0	+2.5	0	-3.5	-7.0															
2. 施工状況	I. 施工管理		+3.0	0	-3.5	-7.0						+5.0	+2.5	0	-5.5	-11.0					
	II. 工程管理	+3.0	+1.5	0	-3.5	-7.0	+15.0	+7.5	0	-7.5	-15.0										
	III. 安全対策	+5.0	+2.0	0	-3.5	-7.0	+20.0	+10.0	0	-10.0	-20.0										
	IV. 対外関係	+5.0	+2.0	0	-2.5	-5.0															
3. 出来形 及び 出来ばえ	I. 出来形	+5.0	+2.0	0	-2.5	-5.0						+10.0	+5.0	0	-7.0	-14.0					
	II. 品 質	+5.0	+2.0	0	-2.5	-5.0						+15.0	+7.5	0	-9.0	-18.0					
	III. 出来ばえ											+5.0	+2.5	0	-3.5						
加減点合計		点					点					点									
評定点 (65±加減点合計)		① 点					② 点					③ 点									
評定点 (割合補正)		④=①×0.4 点					⑤=②×0.2 点					⑥=③×0.4 点									
評定点計		⑦=④+⑤+⑥ 点																			
4. 法令遵守等 ※2							⑧ 点														
評定点合計 ※3		⑨=⑦-⑧ 点																			
所 見 ※4																					

※1 考查項目毎の採点は、別紙「考查項目別運用表」に基づき、主任監督員、総括監督員、検査員の順に記載する。

各考查項目の a～e に該当する評価値を○で囲む。

※2 法令遵守等の評価は、減点評価のみとし、総括監督員が行う。

※3 評定点合計は、四捨五入により整数とする。

※4 所見は必ず記入する。

工事細目別評定採点表

		部			課	
項 目	細 別	① 主任監督員	② 総括監督員	③ 検 査 員	細目別評定点	割 合
1. 施工体制	I. 施工体制一般	()×0.4+3.3 = 点			4.5 点	%
	II. 配置技術者	()×0.4+3.3 = 点			5.7 点	%
2. 施工状況	I. 施工管理	()×0.4+3.3 = 点		()×0.4+6.5 = 点	13.0 点	%
	II. 工程管理	()×0.4+3.3 = 点	()×0.2+6.5 = 点		14.0 点	%
	III. 安全対策	()×0.4+3.3 = 点	()×0.2+6.5 = 点		15.8 点	%
	IV. 対外関係	()×0.4+3.3 = 点			5.3 点	%
3. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形	()×0.4+3.1 = 点		()×0.4+6.5 = 点	15.6 点	%
	II. 品 質	()×0.4+3.1 = 点		()×0.4+6.5 = 点	17.6 点	%
	III. 出来ばえ			()×0.4+6.5 = 点	8.5 点	%
4. 法令遵守等			()×1.0 = 点			
評 価 点 合 計		点	点	点	100.0 点	%

※ 細目別評定点＝①＋②＋③

※ 割合は、細目評定点の合計に対する得点の割合を百分率で示す。（四捨五入により整数）

※ 各項目毎の最後の記入者は、細目別評価点及び割合を記入する。

建築工事成績採点表

部

課

平成	年度	整理番号		工事番号		施工場所	宝塚市										地内				
工 事 名						工 期		平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日													
請負金額		¥				完成年月日		平成 年 月 日			検査年月日		平成 年 月 日								
請負者名					現場代理人					主任技術者						監理技術者					
考 査 項 目 ※1				主任監督員					総括監督員					検 査 員							
				職名 氏名 印					職名 氏名 印					職名 氏名 印							
項 目	細 別	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e					
1. 施工体制	I. 施工体制一般		+3.0	0	-4.0	-8.0															
	II. 配置技術者	+8.0	+3.0	0	-4.0	-8.0															
2. 施工状況	I. 施工管理		+3.0	0	-4.0	-8.0						+7.0	+3.5	0	-7.5	-15.0					
	II. 工程管理	+3.0	+1.5	0	-4.0	-8.0	+15.0	+7.5	0	-7.5	-15.0										
	III. 安全対策	+6.0	+2.0	0	-4.0	-8.0	+20.0	+10.0	0	-10.0	-20.0										
	IV. 対外関係	+6.0	+2.5	0	-2.5	-5.0															
3. 出来形及び 出来ばえ	I. 品 質	+6.0	+2.5	0	-2.5	-5.0						+21.0	+10.5	0	-12.5	-25.0					
	II. 出来ばえ											+7.0	+3.5	0	-5.0						
加減点合計		点					点					点									
評定点 (65±加減点合計)		① 点					② 点					③ 点									
評定点 (割合補正)		④=①×0.4 点					⑤=②×0.2 点					⑥=③×0.4 点									
評定点計		⑦=④+⑤+⑥ 点																			
4. 法令遵守等 ※2							⑧ 点														
評定点合計 ※3		⑨=⑦-⑧ 点																			
所 見 ※4																					

※ 1 考查項目毎の採点は、別紙「考查項目別運用表」に基づき、主任監督員、総括監督員、検査員の順に記載する。

各考查項目の a～e に該当する評価値を○で囲む。

※ 2 法令遵守等の評価は、減点評価のみとし、総括監督員が行う。

※ 3 評定点合計は、四捨五入により整数とする。

※ 4 所見は必ず記入する。

工事細目別評定採点表

		部			課	
項 目	細 別	① 主任監督員	② 総括監督員	③ 検 査 員	細目別評定点	割 合
1. 施工体制	I. 施工体制一般	()×0.4+3.7 = 点			4.9 点	%
	II. 配置技術者	()×0.4+3.7 = 点			6.9 点	%
2. 施工状況	I. 施工管理	()×0.4+3.7 = 点		()×0.4+8.6 = 点	16.3 点	%
	II. 工程管理	()×0.4+3.7 = 点	()×0.2+6.5 = 点		14.4 点	%
	III. 安全対策	()×0.4+3.7 = 点	()×0.2+6.5 = 点		16.6 点	%
	IV. 対外関係	()×0.4+3.7 = 点			6.1 点	%
3. 出来形及び 出来ばえ	I. 品 質	()×0.4+3.8 = 点		()×0.4+8.7 = 点	23.3 点	%
	II. 出来ばえ			()×0.4+8.7 = 点	11.5 点	%
4. 法令遵守等			()×1.0 = 点			
評 価 点 合 計		点	点	点	100.0 点	%

※ 細目別評定点＝①＋②＋③

※ 割合は、細目評定点の合計に対する得点の割合を百分率で示す。(四捨五入により整数)

※ 各項目毎の最後の記入者は、細目別評価点及び割合を記入する。

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。

(主任監督員)

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目	特 殊 事 項
		一 般 事 項	
1. 施工体制	I. 施工体制 一般	対 評 象 値 工事カルテの登録を、監督員の確認を受けた上で契約後10日以内に行っていた。 建設業退職金共済制度による証紙の配布を、受払簿等により適切に把握していた。 施工体制台帳を、現場に備えていた。 施工体系図を、工事関係者及び一般が見やすい場所に掲げていた。 作業分担の範囲が施工体制台帳、施工体系図で確認でき、現場と一致していた。 工事規模に応じた人員、機械配置の施工であった。 現場のイメージアップに積極的に取り組んでいた。 「施工プロセス」チェックで指摘事項が無かった。又は指摘事項に対する改善を、速やかに実施した。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が80%以上・・・b 評価点合計 _____ 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値 _____ % 評価値が60%未満・・・d ① 評価値(%)＝評価点合計／(対象項目数×3) ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 評価区分	対 象 施工体制が不備であり、監督員から文書により改善指示を行った。 上記該当があれば・・・c 評価区分
	II. 配置技術者 (現場代理人等)	対 評 象 値 現場代理人として、工事全体をよく把握していた。 現場代理人として、監督員との連絡調整を適切に行っていた。 主任技術者又は監理技術者として、技術的判断に優れ、良好な施工に努めていた。 下請の施工体制、施工状況を把握し、よく指導していた。 施工に先立ち、創意工夫又は提案をもって工事を進めていた。 契約書、設計図書、指針等をよく理解し、現場に反映して工事を行っていた。 設計図書の照査が十分で現場との相違があった場合、適切に対応していた。 作業主任者を選任し、適正に配置していた。 専門技術者を選任し、適正に配置していた。 書類整理、資料整理を適切に行っていた。 「施工プロセス」チェックで指摘事項が無かった。又は指摘事項に対する改善を、速やかに実施した。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d ① 評価値(%)＝評価点合計／(対象項目数×3) ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 評価区分	対 象 現場代理人等の技術者配置が不備で、監督員から文書により改善指示を行った。 専門技術者が配置されていなかった。 上記1項目該当があれば・・・d 2項目該当があれば・・・c 評価区分
2. 施工状況	I. 施工管理	対 評 象 値 契約書17条第1項第1号から4号に係る設計図書の照査を行い、監督員の確認を受けていた。 施工計画書の内容が、設計図書の内容及び現場条件を反映していた。 設計内容に変更が生じた場合、その都度当該工事着手前に変更施工計画書を提出していた。 施工計画書と現場の施工方法が一致していた。 施工計画書と現場の施工体制が一致していた。 日常の出来形管理を、適時、的確に行っていた。 日常の品質管理を、適時、的確に行っていた。 品質確保のための対策が見られた。 工事材料等の使用及び調達計画が適正で、よく管理していた。 工事材料等の品質保証書等を、適切に整理していた。 工事記録写真等を、適切に整理していた。 段階確認、立会確認の手続きが事前に行っていた。 工事記録の整理を、適時、的確に行っていた。 建設廃棄物及びリサイクルへの取り組みを、適切に行っていた。 機械、車両等に低騒音、排出ガス対策機械の使用を、特記仕様書で義務付けた工事について、工事全体で使用していた。 現場内での整理整頓を、日常的に行っていた。 「施工プロセス」チェックで指摘事項が無かった。又は指摘事項に対する改善を、速やかに実施した。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が80%以上・・・b 評価点合計 _____ 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値 _____ % 評価値が60%未満・・・d ① 評価値(%)＝評価点合計／(対象項目数×3) ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 評価区分	対 象 設計図書と適合しない箇所があり、文書により補修請求を行った。 施工計画書が工事着手前に提出されなかった。 定められた工事材料の検査義務を怠り、破壊検査を行った。 契約図書に基づく施工上の義務につき、監督員から文書により改善指示を行った 上記1項目該当があれば・・・d 2項目以上該当があれば・・・c 評価区分

(主任監督員)

考査項目	細 別	対 象 項 目		特 殊 事 項
		一 般 事 項		
2. 施工状況	II. 工程管理	対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 理由: 対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 ① 評価値 (%) = 評価点合計 / (対象項目数 × 3) ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対象 自主的な工程管理がなされず、監督員から文書により改善指示を行った。 上記該当があれば・d 請負者の責により工期内に工事を完成させなかった。 上記該当があれば・e 評価区分	
	III. 安全対策	対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 理由: 対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 ① 評価値 (%) = 評価点合計 / (対象項目数 × 3) ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対象 安全管理に関する現場管理又は防災体制が不適切であった。 上記該当があれば・d 安全対策の不備により公衆又は工事関係者に死亡若しくは負傷者を生じさせた。 上記該当があれば・e 評価区分	
	IV. 対外関係	対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 理由: 対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 ① 評価値 (%) = 評価点合計 / (対象項目数 × 3) ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対象 請負者の対応による苦情が多い。又は対応が悪くトラブルがあった。 上記該当があれば・d 関係法令に違反する恐れがあったため、監督員から文書により指示を行った。 上記該当があれば・e 評価区分	

(主任監督員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目		特 殊 事 項
		一 般 事 項		
3. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形	対 評 象 価	出来形の形状、寸法が、設計値に対する許容範囲内であった。 出来形管理図及び出来形管理表が適切にまとめられており、記録の確認ができた。 出来形測定において、不可視部分の出来形が写真で的確に判断できた。 自社の管理基準を設定して、適切に管理していた。 写真管理基準の管理項目を満足していた。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合にはc評価とする	対象 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・ d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・ c 評価区分
	II. 品質	対 評 象 価	施工計画書に適切な品質計画を定めており、適切に管理していた。 施工の品質・形状が適切で、良好な施工であった。 品質計画による品質管理記録が整備され、材料の品質証明も適切であった。 不可視部分の写真記録が適切であった。 品質管理方法が明確で、品質確保に創意工夫があった。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合にはc評価とする	対象 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・ d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・ c 評価区分

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。

(主任監督員)

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目		特 殊 事 項
		一 般 事 項		
3. 出来形及び出来ばえ	1. 品質	対 評 象 価	対 象	
		施工計画書に適切な品質計画を定めており、適切に管理していた。 施工の品質・形状が適切で、良好な施工であった。 品質計画による品質管理記録が整備され、材料の品質証明も適切であった。 不可視部分の写真記録が適切であった。 品質管理方法が明確で、品質確保に創意工夫があった。 その他 理由： 対象項目数 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分		

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。

(総括監督員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目								
2. 施工状況	II. 工程管理	対 評 象 価 災害復旧工事及び施工条件の変更等による工期的な制約がある中で、工期内に工事を完成させた。 隣接する他の工事等との積極的な工程調整を行い、トラブルを回避して工期内に工事を完成させた。 地元調整を積極的に行い、トラブルなく工期内に工事を完成させた。 適切な人員管理と工程管理を行った。 配置技術者（現場代理人等）の積極的な工程管理の姿勢が見られた。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目×3） 評価点合計 _____ 評価値 _____％ ※上記項目を総合的に判断して、a、b、c、d、e評価を行う。 評価区分								
	III. 安全対策	対 評 象 価 建設労働災害、公衆災害の防止への努力が顕著であった。 安全衛生管理体制を確立し、組織的に取り組んでいた。 安全衛生管理活動が活発で他の模範となるものであった。 安全管理に関する技術開発や創意工夫に取り組んでいた。 安全協議会活動に積極的に取り組むなど、リーダーシップを発揮していた。 安全職場実現への取り組みが地域から評価されていた。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目×3） 評価点合計 _____ 評価値 _____％ ※上記項目を総合的に判断して、a、b、c、d、e評価を行う。 評価区分								
4. 法令遵守等		対 象 <table><tr><th></th><th>点 数</th></tr><tr><td> 文書注意</td><td>-8 点</td></tr><tr><td> 口頭注意</td><td>-5 点</td></tr><tr><td> 工事関係者事故又は公衆災害が発生したが、ヒューマンエラー等軽微なため、口頭注意以上の処分がなかった場合（不問で処理した案件。もらい事故や交通事故は含まない。）</td><td>-3 点</td></tr></table> 評価点 点 ① 本評価項目で評価する事例は、「工事の施工に当たり、工事関係者が下記の適応事例で上表の措置があった」場合に適応する。 ② 「工事の施工に当たり」とは、請負契約書の記載内容（工事名、工期等）を履行することに限定する。 ③ 「工事関係者」とは、②を履行する工事現場に従事する現場代理人、監理技術者、主任技術者、請負会社の現場従事職員及び②を履行するために下請契約し、その履行をするために従事する者をいう。 【上記で評価する場合の適応事例】 入札前に提出した調査資料等が虚偽であった事実が判明した。 承諾なしに権利義務等第三者譲渡又は承継を行った。 宿舍環境等の使用人等に関する労働条件に問題あり、送検等された。 産業廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無許可採取等、関係法令に違反する事実が判明した。 当該工事関係者が贈収賄等により逮捕又は公訴された。 建設業法に違反する事実が判明した。（例：一括下請け、技術者の専任違反等） 入国管理法に違反する外国人の不法就労者が判明し、送検等された。 使用人等の就労に関する労働基準法に違反する事実が判明し、送検等された。 監督又は検査の実施に当たり、職務の執行を妨げた。あるいは不正な政治力等の圧力をかけ、妨害した。 下請代金遅延防止法第4条に規定する下請代金の支払いを期日以内に行っていない。あるいは不当に下請代金の額を減じている。あるいはそれに類する行為がある。 過積載等の道路交通法違反により、逮捕又は送検等された。 受注企業の社員に「指定暴力団」あるいは「指定暴力団の傘下組織（団体）」に所属する構成員、準構成員、企業舎弟等、暴力団関係者がいることが判明した。 下請けに暴力団関係企業が入っていることが判明した。あるいは暴力団対策法第9条に記されている、砂利、砂、防音シート、軍手等の物品の納入、土木作業員やガードマンの受け入れ、土木作業員用の自動販売機の設置等を行っている事実が判明した。 安全管理の処分が不適切であったために、死傷者を生じさせた工事関係者事故、又は重大な損害を与えた公衆災害を起こした。 施工体制台帳、施工体系図が不備で、監督員から文書等による改善指示を行ったが、これに従わなかった。 その他 理由： _____		点 数	文書注意	-8 点	口頭注意	-5 点	工事関係者事故又は公衆災害が発生したが、ヒューマンエラー等軽微なため、口頭注意以上の処分がなかった場合（不問で処理した案件。もらい事故や交通事故は含まない。）	-3 点
	点 数									
文書注意	-8 点									
口頭注意	-5 点									
工事関係者事故又は公衆災害が発生したが、ヒューマンエラー等軽微なため、口頭注意以上の処分がなかった場合（不問で処理した案件。もらい事故や交通事故は含まない。）	-3 点									

(検査員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 事 項		特 殊 事 項
		一 般 事 項		
2. 施工状況	I. 施工管理	対 評 象 価 ☐ 契約書 17 条第 1 項第 1 号から 4 号に係る設計図書の照査を行い、監督員の確認を受けていた。 ☐ 施工計画書の内容が、設計図書の内容及び現場条件を反映していた。 ☐ 設計内容に変更が生じた場合は、その都度当該工事着手前に変更施工計画書を提出していた。 ☐ 施工計画書と現場の施工方法が一致していた。 ☐ 施工計画書と現場の施工体制が一致していた。 ☐ 品質確保のための対策が見られた。 ☐ 工事材料等の品質保証書等を適切に整理していた。 ☐ 工事記録写真等を適切に整理していた。 ☐ 段階確認、立会確認の手続きを事前に行っていた。 ☐ 工事記録の整理を適時、的確に行っていた。 ☐ 建設廃棄物及びリサイクルへの取り組みを適切に行っていた。 ☐ 施工体制台帳、施工体系図を現場に備えていた。 ☐ 作業分担の範囲が施工体制台帳、施工体系図で確認でき、現場と一致していた。 ☐ 建退共の証紙を適切に配布し、管理していた。 ☐ 書類整理、資料整理を適切に行っていた。 ☐ 自社の管理基準を設定して、適切に管理していた。 ☐ その他 理由： 対象項目数 評価点合計 評価値 ① 評価値 (%) = 評価点合計 / (対象項目数 × 3) ② 対象項目数が 2 以下の場合は c 評価とする	対 象 ☐ 設計図書と適合しない箇所があり、文書により補修指示を行った。 ☐ 契約図書に基づく施工上の義務につき、監督員から文書により改善指示を行った 上記 1 項目該当があれば・・・ d 2 項目該当があれば・・・ e 評価区分	
		対 評 象 価 ☐ 出来形の形状、寸法が、設計値に対する許容範囲内であった。 ☐ 出来形管理図及び出来形管理表が適切にまとめられており、記録の確認ができた。 ☐ 出来形測定において、不可視部分の出来形が写真で的確に判断できた。 ☐ 自社の管理基準を設定して、適切に管理していた。 ☐ 写真管理基準の管理項目を満足していた。 ☐ その他 理由： 対象項目数 評価点合計 評価値 ① 評価値 (%) = 評価点合計 / (対象項目数 × 3) ② 対象項目数が 2 以下の場合は c 評価とする	対 象 ☐ 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・・・ d ☐ 契約書第 16 条 2 項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・・・ e 評価区分	
3. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形	対 評 象 価 ☐ 出来形の形状、寸法が、設計値に対する許容範囲内であった。 ☐ 出来形管理図及び出来形管理表が適切にまとめられており、記録の確認ができた。 ☐ 出来形測定において、不可視部分の出来形が写真で的確に判断できた。 ☐ 自社の管理基準を設定して、適切に管理していた。 ☐ 写真管理基準の管理項目を満足していた。 ☐ その他 理由： 対象項目数 評価点合計 評価値 ① 評価値 (%) = 評価点合計 / (対象項目数 × 3) ② 対象項目数が 2 以下の場合は c 評価とする	対 象 ☐ 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・・・ d ☐ 契約書第 16 条 2 項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・・・ e 評価区分	

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。

(検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目		特 殊 事 項	
		一	般 事 項		
2. 施工状況	1. 施工管理	対 評 象 価		対 象	設計図書と適合しない箇所があり、文書により補修指示を行った。 契約図書に基づく施工上の義務につき、監督員から文書により改善指示を行った 上記1項目該当があれば ・・・d 2項目該当があれば ・・・c 評価区分
		☐	契約書17条第1項第1号から4号に係る設計図書の照査を行い、監督員の確認を受けていた。	☐	
		☐	施工計画書の内容が、設計図書内容及び現場条件を反映していた。	☐	
		☐	設計内容に変更が生じた場合は、その都度当該工事着手前に変更施工計画書を提出していた。	☐	
		☐	施工計画書と現場の施工方法が一致していた。		
		☐	施工計画書と現場の施工体制が一致していた。		
		☐	品質確保のための対策が見られた。		
		☐	工事材料等の品質保証書等を適切に整理していた。		
		☐	工事記録写真等を適切に整理していた。		
		☐	段階確認、立会確認の手続きを事前に行っていた。		
☐	工事記録の整理を適時、的確に行っていた。				
☐	建設廃棄物及びリサイクルへの取り組みを適切に行っていた。				
☐	施工体制台帳、施工体系図を現場に備えていた。				
☐	作業分担の範囲が施工体制台帳、施工体系図で確認でき、現場と一致していた。				
☐	建退共の証紙を適切に配布し、管理していた。				
☐	書類整理、資料整理を適切に行っていた。				
☐	自社の管理基準を設定して、適切に管理していた。				
☐	その他	理由：			
		対象項目数	評価値が90%以上・・・a		
		評価点合計	評価値が80%以上～90%未満・・・b		
		評価値 %	評価値が60%以上～80%未満・・・c		
			評価値が60%未満・・・d		
		評価区分	① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）		
			② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする		

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

検査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象評価 雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していた。 段切り等を施工前に適切に行っていた。 置換えのための掘削を行うに当たり、掘削面以下を乱さないように施工していた。 締固めを適切な条件で施工していた。 筋芝又は種子吹付等を適切に行っていた。 構造物周辺の締め固め等の処理を適正に行っていた。 土羽土の土質が適正であった。 法面に有害なクラックや損傷部が無かった。 その他 <u>理由：</u> 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価値が90%以上 評価値が80%以上～90%未満 評価値が60%以上～80%未満 評価値が60%未満 a b c d 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対象 監督員が文書で改善指示を行った、 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分
	Ⅲ. 出来ばえ	対象評価 通りが良かった。 規定された勾配を確保していた。 法面勾配の変化部に干渉部等を設け、適切に施工していた。 施工面に滞水防止等の処理を適切に行っていた。 関係構造物等との取り合いを適切に行っていた。 残土等を適切に処理していた。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価値が90%以上 評価値が80%以上～90%未満 評価値が60%以上～80%未満 評価値が60%未満 a b c d 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

(検査員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象項目 ☐ ☐ 設計図書に基づくコンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、適切なコンクリートの規格が確認できた。 ☐ ☐ コンクリート打設時に必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できた。 ☐ ☐ コンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できた。 ☐ ☐ 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のバイブレータの機種、養生方法等、適切に施工していた。 ☐ ☐ 型枠、支保工の取り外し時のコンクリート強度を適正に管理していた。 ☐ ☐ 鉄筋の規格がミルシートで確認できた。 ☐ ☐ コンクリート打設までの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できた。 ☐ ☐ 鉄筋の組立・加工が適正であることが確認できた。 ☐ ☐ 圧接作業に当たり、作業員の技量確認を行っていた。 ☐ ☐ スペーサーの材質が適正で、品質が確認できた。 ☐ ☐ スペーサーを適切に配置し、鉄筋の被りを確保していた。 ☐ ☐ その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c _____ 評価値が60%未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） _____ ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする ☐ ☐ コンクリートブロック張等にクラックがある場合、進行性又は有害なクラックは無く、発生したクラックに適切な処置を行っている。 上記該当があれば・・・ c	対象項目 ☐ ☐ 監督員が文書で改善指示を行った。 ☐ ☐ クラックがある場合、進行性又は有害なクラックはないが、発生したクラックに適切な処置を行っていないかった。 上記該当があれば・ d ☐ ☐ 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 ☐ ☐ 進行性又は有害なクラックがあった。 上記該当があれば・ c 評価区分
	Ⅲ. 出来ばえ	対象項目 ☐ ☐ コンクリート構造物の肌が良かった。 ☐ ☐ コンクリート構造物の通りが良かった。 ☐ ☐ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良かった。 ☐ ☐ クラックが無かった。 ☐ ☐ 漏水が無かった。 ☐ ☐ 全体的な美観が良かった。 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c _____ 評価値が60%未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。 (検 査 員)

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象 評価 【共通】 施工に先立ち、CBR値を測定し、適正な舗装設計の基礎資料収集を行っていた。 路床・路盤工のブルフローリングを行っていた。 その他 理由： _____ 【アスファルト舗装工関係】 設計図書に基づく混合物の配合設計及び試験練りを行っており、適切な混合物の規格が確認できた。 混合物の温度管理が、プラント出荷時・現場到着時・舗設時等に整理・記録していた。 舗設後、直ちに供用する必要がある現場で、交通開放を適切に行っていた。 舗装の各層の継ぎ目が仕様書に定められた数値以上ずらしていた。 目地の処理が仕様書に定められた通りであることが確認できた。 気象条件に適した混合物の運搬方法、舗設作業（締め固め等）の配慮があった。 その他 理由： _____ 【コクリート舗装工関係】 設計図書に基づくコンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、適切なコンクリートの規格が確認できた。 コンクリート打設時に必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できた。 コンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できた。 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設方法、養生方法等、適切に施工していた。 チェア、タイバー等の保管管理が適切であることが確認できた。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対象 評価 監督員が文書で改善指示を行った。 クラックがある場合、進行性又は有害なクラックはないが、発生したクラックに適切な処置を行っていなかった。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 進行性又は有害なクラックがあった。 上記該当があれば・e 評価区分
	Ⅲ. 出来ばえ	対象 評価 舗装の平坦性が良かった。 構造物の通りが良かった。 端部処理が良かった。 構造物へのすり付け等が良かった。 雨水処理が良かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

(検査員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	II. 品質	対象評価 ☐設計図書に基づくコンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、適切なコンクリートの規格が確認できた。 ☐コンクリート打設時に必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できた。 ☐コンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できた。 ☐施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のパイプレータの機種、養生方法等、適切に施工していた。 ☐型枠、支保工の取り外し時のコンクリート強度を適正に管理していた。 ☐鉄筋の規格がミルシートで確認できた。 ☐コンクリート打設までの鉄筋の保管が適正であることが確認できた。 ☐鉄筋の組立・加工が適正であることが確認できた。 ☐圧接作業に当たり、作業員の技量確認を行っていた。 ☐スペーサーを適切に配置し、鉄筋の被りを確保していた。 ☐施工に先立ち、C B R 値を測定し、適正な舗装設計の基礎資料収集を行っていた。 ☐路床・路盤工のブルフローリングを行っていた。 ☐設計図書に基づく混合物の配合設計及び試験練りを行っており、適切な混合物の規格が確認できた。 ☐混合物の温度管理が、プラント出荷時・現場到着時・舗設時等に整理・記録していた。 ☐舗装の各層の継ぎ目が仕様書に定められた数値以上ずらしていた。 ☐目地の処理が仕様書に定められた通りであることが確認できた。 ☐気象条件に適した混合物の運搬方法、舗設作業（締め固め等）の配慮があった。 ☐その他 理由： 対象項目数 評価点合計 評価値 % 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対象 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e 評価区分
	III. 出来ばえ	対象評価 ☐コンクリート構造物の肌が良かった。 ☐コンクリート構造物の通りが良かった。 ☐天端仕上げ、端部仕上げ等が良かった。 ☐クラックが無かった。 ☐漏水が無かった。 ☐舗装の平坦性が良かった。 ☐構造物へのすりつけが良かった。 ☐雨水処理が良かった。 ☐全体的な美観が良かった。 対象項目数 評価点合計 評価値 % 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。 (検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 施工基面が平滑に仕上がっていた。 裏込材、胴込コンクリートの充填又は締固めが充分で、空隙が生じていなかった。 緑化ブロック、石積（張）、法枠、かごマット等で、材料のかみ合わせ又は連結が適切で、裏込材の吸出しの恐れがなかった。 護岸工の端部や曲線部の処理・強度・水密性が適切であった。 遮水シートが所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が適切であった。 植生工で、植生の種類、品質、配合、施工後の養生が適切であった。 根固工、水制工、沈床工、捨石工等で、材料の連結又はかみ合わせが適切であった その他 理由： 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価値が90%以上・・・a 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対 象 監督員が文書で改善指示を行った、 クラックがある場合、進行性又は有害なクラックはないが、発生したクラックに適切な処置を行っていないかった。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 進行性又は有害なクラックがあった。 上記該当があれば・c 評価区分
	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 通りが良かった。 材料のかみ合わせが良かった。 天端、端部の仕上げが良かった。 既設構造物とのすり付けが良かった。 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価値が90%以上・・・a 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目		特 殊 事 項
		一 般 事 項		
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象 評価 設計図書に基づくコンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、適切なコンクリートの規格が確認できた。 コンクリート打設時に必要な供試体を採用し、強度・スランプ・空気量等が確認できた。 コンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できた。 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のバイブレータの機種、養生方法等、適切に施工していた。 型枠、支保工の取り外し時のコンクリート強度を適正に管理していた。 地山との取り外しを適切に行っていた。 鉄筋又は鋼材の規格がミルシートで確認できた。 その他 <u>理由：</u> コンクリート打設までの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できた。 鉄筋の組立・加工が適正であることが確認できた。 施工基面が平滑に仕上がっていた。 アンカーが設計図書どおり施工していることが確認できた。 ボルトの締め付け確認が実施され、適切に記録を保管していた。 ボルトの締付機、測定機器のキャリブレーションを実施していた。 その他 <u>理由：</u> 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする コンクリートブロック張等にクラックがある場合、進行性又は有害なクラックは無く、発生したクラックに適切な処置を行っている。 上記該当があれば・・・c 対象 監督員が文書で改善指示を行った、 クラックがある場合、進行性又は有害なクラックはないが、発生したクラックに適切な処置を行っていなかった。 上記該当があれば・・・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 進行性又は有害なクラックがあった。 上記該当があれば・・・e 評価区分		
	Ⅲ. 出来ばえ	対象 評価 コンクリート構造物の肌が良かった。 コンクリート構造物の通りが良かった。 天端仕上げ、端部仕上げ等が良かった。 クラックが無かった。 漏水が無かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）		

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。（検 査 員）

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象評価 設計図書に基づくコンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、適切なコンクリートの規格が確認できた。 コンクリート打設時に必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できた。 コンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できた。 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のバイブレータの機種、養生方法等、適切に施工していた。 型枠、支保工の取り外し時のコンクリート強度を適正に管理していた。 地山との取り外しを適切に行っていた。 鉄筋又は鋼材の規格がミルシートで確認できた。 その他 理由：_____ アンカーが設計図書どおり施工していることが確認できた。 ライナープレートの組み立てに当たり、偏心と歪みに配慮し、施工を行っていた。 ライナープレートと地山との隙間が少なくなるように施工を行っていた。 集・排水ボーリング工の方向、角度が適正となるように施工上の配慮があった。 その他 理由：_____ 対象項目数 _____ 評価点合計 _____ 評価値 _____ % 評価区分 評価値が90%以上・・・a 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 対象 監督員が文書で改善指示を行った、 クラックがある場合、進行性又は有害なクラックはないが、発生したクラックに適切な処置を行っていなかった。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 進行性又は有害なクラックがあった。 上記該当があれば・c 評価区分	
	Ⅲ. 出来ばえ	対象評価 地山との取り合いが良い。 天端、端部の仕上げが良い。 施工管理記録等から不可視部分の出来映えの良さが確認できた。 全体的な美観が良い。 対象項目数 _____ 評価点合計 _____ 評価値 _____ % 評価区分 評価値が90%以上・・・a 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） コンクリートブロック張等に変形がある場合、進行性又は有害なクラックはなく、発生したクラックに適切な処置を行っている。 上記該当があれば・・・c	

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 【共通】 施工基面が平滑に仕上がっていた。 その他 理由： 【種子吹付工、客土吹付工、厚層基材吹付工関係】 土壌試験を実施し、施工に反映していた。 ネット等の重ね幅が10cm以上確保していた。 吹付け厚さが均等であった。 吹付け厚さによって、必要な場合2層以上に分けて行っているのが確認できた。 その他 理由： 【コンクリート又はモルタル吹付工関係】 金網等の重ね幅が10cm以上確保していた。 吹付け厚さが均等であった。 供試体が当該現場の供試体であることが確認できた。 跳ね返り材料を適切に処理していた。 その他 理由： 【現場打法枠工関係】 アンカーの施工長さが確認できた。 現場養生を適切に行っていた。 供試体が当該現場の供試体であることが確認できた。 枠内にお空隙がないことが確認できた。 層間にはく離がないことが確認できた。 跳ね返り材料を適切に処理していた。 その他 理由： 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価値が90%以上・・・a 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対 象 監督員が文書で改善指示を行った、 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分
	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 通りが良かった。 植生、吹付等の状態が均一であった。 端部処理が良かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価値が90%以上・・・a 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目		
		一 般 事 項	特 殊 事 項	
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 防護柵設置要綱、視線誘導標語設置基準、道路標識ハンドブック等の規定に従い適切に施工し、規格値を満足していた。 塗装の空缶管理が、写真等で確実に空であることが確認できた。 その他 理由：_____ 対象項目数 _____ 評価点合計 _____ 評価値 _____ % 評価値が90%以上・・・・・・・・・・ a 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） 対 象 監督員が文書で改善指示を行った、 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 通りが良かった。 端部処理が良かった。 部材表面に傷、錆が無かった。 支柱基礎の埋め戻し等を入念に施工していた。 全体的な美観が良い。 対象項目数 _____ 評価点合計 _____ 評価値 _____ % 評価値が90%以上・・・・・・・・・・ a 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目		
		一 般 事 項	特 殊 事 項	
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象評価 植栽樹木の規格（幹周り・樹高・枝張り）や樹姿、樹勢が適正であった。 移植の際、根回りや樹皮の乾燥防止の対策が適正であった。 照明灯や配電盤等漏電防止のため、接地工を適切に施工していた。 石組み、縁石及び舗装材の品質が適正であった。 遊具、ベンチ、柵等の基礎工が適切であった。 あずまや、シェルター等の建築施設の組立を適正に施工していた。 その他 <u>理由：</u> 対象項目数 評価点合計 評価値 評価値が90%以上 評価値が80%以上～90%未満 評価値が60%以上～80%未満 評価値が60%未満 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 対象 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分 <tr><td>Ⅲ. 出来ばえ</td><td> 対象評価 通りが良かった。 端部処理が良かった。 遊具等の部材表面に傷、錆が無かった。 支柱基礎の埋め戻し等を入念に施工していた。 植栽の配列が周りの遊具・ベンチ・照明等と調和していた。 側溝・管渠の勾配や接合が適正であった。 全体的な美観が良い。 対象項目数 評価点合計 評価値 評価値が90%以上 評価値が80%以上～90%未満 評価値が60%以上～80%未満 評価値が60%未満 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） </td></tr>	Ⅲ. 出来ばえ	対象評価 通りが良かった。 端部処理が良かった。 遊具等の部材表面に傷、錆が無かった。 支柱基礎の埋め戻し等を入念に施工していた。 植栽の配列が周りの遊具・ベンチ・照明等と調和していた。 側溝・管渠の勾配や接合が適正であった。 全体的な美観が良い。 対象項目数 評価点合計 評価値 評価値が90%以上 評価値が80%以上～90%未満 評価値が60%以上～80%未満 評価値が60%未満 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）
	Ⅲ. 出来ばえ	対象評価 通りが良かった。 端部処理が良かった。 遊具等の部材表面に傷、錆が無かった。 支柱基礎の埋め戻し等を入念に施工していた。 植栽の配列が周りの遊具・ベンチ・照明等と調和していた。 側溝・管渠の勾配や接合が適正であった。 全体的な美観が良い。 対象項目数 評価点合計 評価値 評価値が90%以上 評価値が80%以上～90%未満 評価値が60%以上～80%未満 評価値が60%未満 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）		

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。 (検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目		
		一 般 事 項	特 殊 事 項	
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 防護柵設置要綱、視線誘導標語設置基準、道路標識ハンドブック等の規定に従い適切に施工し、規格値を満足していた。 ペイント式区画線に使用するシンナーの使用量が10%程度以下であった。 塗装の空缶管理が、写真等で確実に空であることが確認できた。 その他理由： 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価値が90%以上 a 評価値が80%以上～90%未満 b 評価値が60%以上～80%未満 c 評価値が60%未満 d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） 対 象 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e 評価区分	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 塗料の塗布が均一であった。 視認性が良かった。 接着状態が良かった。 施工前の清掃を入念に実施していた。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価値が90%以上 a 評価値が80%以上～90%未満 b 評価値が60%以上～80%未満 c 評価値が60%未満 d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目		
		一 般 事 項	特 殊 事 項	
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 杭に損傷及び補修痕が無かった。 杭の打ち止め管理方法又は場所打ち杭の施工管理方法等が整備され、かつ記録が確認できた。 水平度、安全度、鉛直度等が確認できた。 溶接の品質管理に関して仕様書に定められた事項が確認できた。 場所打ち杭についてトレミー管をコンクリート内に2 m以上入れて施工していることが確認できた。 掘削深度、排出土砂、孔内水位の変動及び安定液を用いる場合の孔内の安定液濃度、比重等を適切に管理していた。 ライナープレートを組み立てに当たっては、偏心と歪みが少なくなるよう配慮があった。 裏込材注入の圧力等が施工記録により確認できた。 その他 <u>理由：</u> 対象項目数 <u> </u> 評価値が90％以上・・・a 評価点合計 <u> </u> 評価値が80％以上～90％未満・・・b 評価値 <u> </u>％ 評価値が60％以上～80％未満・・・c 評価値が60％未満・・・d 評価区分 <u> </u> ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 対 評 象 価 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e 評価区分 <u> </u>	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 土工関係の仕上げが良かった。 通りが良かった。 端部、天端仕上げが良かった。 施工管理記録等から不可視部分の出来映えの良さが確認できた。 対象項目数 <u> </u> 評価値が90％以上・・・a 評価点合計 <u> </u> 評価値が80％以上～90％未満・・・b 評価値 <u> </u>％ 評価値が60％以上～80％未満・・・c 評価値が60％未満・・・d 評価区分 <u> </u> ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。 (検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 【工場製作関係】 鋼材の員数照会がミルシート等（現物照会を含む）で確認されていた。 溶接作業に当たり、作業員の技量確認を行っていた。 塗装する面が乾燥状態であることが確認できた。（重ね塗りの場合も含む） 素地調整の場合第1種ケレン後4時間以内に金属前処理塗装を実施していることが確認できた。 塗装の空缶管理が、写真等で確実に空であることが確認できた。 その他 理由： _____ 【架設関係】 ボルトの締付確認が実施され、適切に記録を保管していた。 ボルトの締付機、測定機器のキャリブレーションを実施していた。 支承の据付でコンクリート面のチッピング付着が確認でき、仕上げ面に水切勾配がついていた。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	

対 評
象

監督員が文書で改善指示を行った。

上記該当があれば・d

契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。

上記該当があれば・e

評価区分

考 査 項 目 別 運 用 表

〔記入方法〕 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。（検 査 員）

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象 評価 設計図書に基づくコンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、適切なコンクリートの規格が確認できた。 コンクリート打設時に必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できた。 コンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できた。 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のバイブレータの機種、養生方法等、適切に施工していた。 型枠、支保工の取り外し時のコンクリート強度を適正に管理していた。 鉄筋の規格がミルシートで確認できた。 鉄筋の引張強度又は曲げ強度が試験値で確認できた。 鉄筋の組立・加工が適正であることが確認できた。 圧接作業に当たり、作業員の技量確認を行っていた。 スペーサーの材質が適正で、品質が確認できた。 スペーサーを適切に配置し、鉄筋の被りを確保していた。 プレフレクション桁のプレフレクション（荷重）管理を適切に行っていた。 装置（機器）のキャリブレーション（校正）を実施していた。 緊張及びグラウト管理を適切に実施していた。 プレストレッシング時のコンクリート強度が最大圧縮応力度の1.7倍以上であることが確認できた。 構造物と同様な養生条件におかれた供試体を用いて圧縮強度の確認を行っていた。 その他 理由： 対象項目数 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする コンクリートブロック張等にクラックがある場合、進行性又は有害なクラックは無く、発生したクラックに適切な処置を行っていた。 上記該当があれば・・・c	対象 評価 監督員が文書で改善指示を行った。 クラックがある場合、進行性又は有害なクラックはないが、発生したクラックに適切な処置を行っていないかった。 上記該当があれば・・・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 進行性又は有害なクラックがあった。 上記該当があれば・・・c 評価区分
	Ⅲ. 出来ばえ	対象 評価 コンクリート構造物の肌が良かった。 コンクリート構造物の通りが良かった。 天端仕上げ、端部仕上げ等が良かった。 クラックが無かった。 漏水が無かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 値 設計図書に基づくコンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、適切なコンクリートの規格が確認できた。 コンクリート打設時に必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できた。 コンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できた。 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のパイプレータの機種、養生方法等、適切に施工していた。 鉄筋の規格がミルシートで確認できた。 金網の保管管理が適正であることが確認できた。 コンクリート打設までの鉄筋等の保管管理が適正であることが確認できた。 日々計測管理を行っており、それに基づいた施工が行われていることが確認できた 金網の継ぎ目を15cm（一目）以上重ね合わせていることが確認できた。 吹付コンクリートは浮石等を除いた後に、設計以上の厚さで地山と密着するように施工していた。 吹付コンクリートの打継ぎ部の施工で清掃及び湿潤状態が確認できた。 ロックボルト挿入前にくり粉除去の清掃を行っていた。 逆巻の場合、側壁コンクリートとアーチコンクリートの打ち継ぎ目が同一線上にないことが確認できた。 その他 <u>理由：</u> 対象項目数 <u> </u> 評価点合計 <u> </u> 評価値 <u> </u> % 評価値が90%以上・・・・・・・・・a 評価値が80%以上～90%未満・・・・b 評価値が60%以上～80%未満・・・・c 評価値が60%未満・・・・・・・・・d 評価区分 <u> </u> ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対 象 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e 評価区分 <u> </u>
	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 値 コンクリート構造物の肌が良かった。 コンクリート構造物の通りが良かった。 天端仕上げ、端部仕上げ等が良かった。 クラックが無かった。 漏水が無かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 <u> </u> 評価点合計 <u> </u> 評価値 <u> </u> % 評価値が90%以上・・・・・・・・・a 評価値が80%以上～90%未満・・・・b 評価値が60%以上～80%未満・・・・c 評価値が60%未満・・・・・・・・・d 評価区分 <u> </u> ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象評価 理由： 理由： 理由： 理由： 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価区分 評価値が90%以上 評価値が80%以上～90%未満 評価値が60%以上～80%未満 評価値が60%未満 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

対象

監督員が文書で改善指示を行った。

上記該当があれば・d

契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。

上記該当があれば・e

評価区分

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目																																										
		一 般 事 項	特 殊 事 項																																									
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	<table><tr><td>対 評 象 価</td><td></td></tr><tr><td><table><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table></td><td>土壌高度試験及び土壌試験（PH）を実施し、施工に反映していた。 活着管理を適切に行っていた。 樹木等に損傷、はちくずれ等がなく、保護養生を適切に行っていた。 樹木等の生育に害のあるものは除去していた。 余剰枝の剪定、整形その他必要な手入れを行っていた。 肥料が直接樹木の根に触れないよう均一に施肥していた。 その他 理由： </td></tr><tr><td>対 象</td><td><table><tr><td>☐</td><td>監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d</td></tr><tr><td>☐</td><td>契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e</td></tr><tr><td>評価区分</td><td> </td></tr></table></td></tr></table>	対 評 象 価		<table><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table>	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	土壌高度試験及び土壌試験（PH）を実施し、施工に反映していた。 活着管理を適切に行っていた。 樹木等に損傷、はちくずれ等がなく、保護養生を適切に行っていた。 樹木等の生育に害のあるものは除去していた。 余剰枝の剪定、整形その他必要な手入れを行っていた。 肥料が直接樹木の根に触れないよう均一に施肥していた。 その他 理由： 	対 象	<table><tr><td>☐</td><td>監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d</td></tr><tr><td>☐</td><td>契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e</td></tr><tr><td>評価区分</td><td> </td></tr></table>	☐	監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d	☐	契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e	評価区分		<table><tr><td>対象項目数</td><td>_____</td><td>評価値が90%以上・・・・・・a</td></tr><tr><td>評価点合計</td><td>_____</td><td>評価値が80%以上～90%未満・・・・b</td></tr><tr><td>評価値</td><td>_____ %</td><td>評価値が60%以上～80%未満・・・・c</td></tr><tr><td></td><td></td><td>評価値が60%未満・・・・・・d</td></tr><tr><td>評価区分</td><td> </td><td>① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする</td></tr></table>	対象項目数	_____	評価値が90%以上・・・・・・a	評価点合計	_____	評価値が80%以上～90%未満・・・・b	評価値	_____ %	評価値が60%以上～80%未満・・・・c			評価値が60%未満・・・・・・d	評価区分		① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする
	対 評 象 価																																											
<table><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table>	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	土壌高度試験及び土壌試験（PH）を実施し、施工に反映していた。 活着管理を適切に行っていた。 樹木等に損傷、はちくずれ等がなく、保護養生を適切に行っていた。 樹木等の生育に害のあるものは除去していた。 余剰枝の剪定、整形その他必要な手入れを行っていた。 肥料が直接樹木の根に触れないよう均一に施肥していた。 その他 理由： 																													
☐	☐																																											
☐	☐																																											
☐	☐																																											
☐	☐																																											
☐	☐																																											
☐	☐																																											
☐	☐																																											
対 象	<table><tr><td>☐</td><td>監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d</td></tr><tr><td>☐</td><td>契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e</td></tr><tr><td>評価区分</td><td> </td></tr></table>	☐	監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d	☐	契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e	評価区分																																						
☐	監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d																																											
☐	契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e																																											
評価区分																																												
対象項目数	_____	評価値が90%以上・・・・・・a																																										
評価点合計	_____	評価値が80%以上～90%未満・・・・b																																										
評価値	_____ %	評価値が60%以上～80%未満・・・・c																																										
		評価値が60%未満・・・・・・d																																										
評価区分		① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする																																										
	Ⅲ. 出来ばえ	<table><tr><td>対 評 象 価</td><td></td></tr><tr><td><table><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table></td><td>樹木の活着状況が良かった。 支柱の取り付けをきめ細かく施工していた。 支柱の取り付けが堅固であった。 植栽帯の全体的な美観が良かった。</td></tr><tr><td>対 象</td><td><table><tr><td>☐</td><td>評価値が90%以上・・・・・・a</td></tr><tr><td>☐</td><td>評価値が80%以上～90%未満・・・・b</td></tr><tr><td>☐</td><td>評価値が60%以上～80%未満・・・・c</td></tr><tr><td>☐</td><td>評価値が60%未満・・・・・・d</td></tr><tr><td>評価区分</td><td> </td><td>① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）</td></tr></table></td></tr></table>	対 評 象 価		<table><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table>	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	樹木の活着状況が良かった。 支柱の取り付けをきめ細かく施工していた。 支柱の取り付けが堅固であった。 植栽帯の全体的な美観が良かった。	対 象	<table><tr><td>☐</td><td>評価値が90%以上・・・・・・a</td></tr><tr><td>☐</td><td>評価値が80%以上～90%未満・・・・b</td></tr><tr><td>☐</td><td>評価値が60%以上～80%未満・・・・c</td></tr><tr><td>☐</td><td>評価値が60%未満・・・・・・d</td></tr><tr><td>評価区分</td><td> </td><td>① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）</td></tr></table>	☐	評価値が90%以上・・・・・・a	☐	評価値が80%以上～90%未満・・・・b	☐	評価値が60%以上～80%未満・・・・c	☐	評価値が60%未満・・・・・・d	評価区分		① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）																	
対 評 象 価																																												
<table><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table>	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	樹木の活着状況が良かった。 支柱の取り付けをきめ細かく施工していた。 支柱の取り付けが堅固であった。 植栽帯の全体的な美観が良かった。																																			
☐	☐																																											
☐	☐																																											
☐	☐																																											
☐	☐																																											
対 象	<table><tr><td>☐</td><td>評価値が90%以上・・・・・・a</td></tr><tr><td>☐</td><td>評価値が80%以上～90%未満・・・・b</td></tr><tr><td>☐</td><td>評価値が60%以上～80%未満・・・・c</td></tr><tr><td>☐</td><td>評価値が60%未満・・・・・・d</td></tr><tr><td>評価区分</td><td> </td><td>① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）</td></tr></table>	☐	評価値が90%以上・・・・・・a	☐	評価値が80%以上～90%未満・・・・b	☐	評価値が60%以上～80%未満・・・・c	☐	評価値が60%未満・・・・・・d	評価区分		① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）																																
☐	評価値が90%以上・・・・・・a																																											
☐	評価値が80%以上～90%未満・・・・b																																											
☐	評価値が60%以上～80%未満・・・・c																																											
☐	評価値が60%未満・・・・・・d																																											
評価区分		① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）																																										

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。 (検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目																																									
		一 般 事 項	特 殊 事 項																																								
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	<table><tr><td>対 評 象 価</td><td></td></tr><tr><td><table><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table>塗装する面が乾燥状態であることが確認できた。（重ね塗りの場合も含む） ケレンが入念に実施されていることが確認できた。 施工時の天候、気温及び湿度等の条件を整理・記録していた。 塗料を試用前に攪拌し、容器底部に顔料沈殿がしていないことが確認できた。 塗膜に有害な付着物が無かった。 塗料の空缶管理が、写真等で確実に確認できた。 その他 理由： </td></tr><tr><td>対象項目数</td><td>_____</td><td>評価値が90%以上・・・・・・・・・・ a</td></tr><tr><td>評価点合計</td><td>_____</td><td>評価値が80%以上～90%未満・・・・ b</td></tr><tr><td>評価値</td><td>_____ %</td><td>評価値が60%以上～80%未満・・・・ c</td></tr><tr><td></td><td></td><td>評価値が60%未満・・・・・・・・・・ d</td></tr><tr><td>評価区分</td><td> </td><td>① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする</td></tr></table>	対 評 象 価		<table><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table> 塗装する面が乾燥状態であることが確認できた。（重ね塗りの場合も含む） ケレンが入念に実施されていることが確認できた。 施工時の天候、気温及び湿度等の条件を整理・記録していた。 塗料を試用前に攪拌し、容器底部に顔料沈殿がしていないことが確認できた。 塗膜に有害な付着物が無かった。 塗料の空缶管理が、写真等で確実に確認できた。 その他 理由： 	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	対象項目数	_____	評価値が90%以上・・・・・・・・・・ a	評価点合計	_____	評価値が80%以上～90%未満・・・・ b	評価値	_____ %	評価値が60%以上～80%未満・・・・ c			評価値が60%未満・・・・・・・・・・ d	評価区分		① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	<table><tr><td>対 象</td><td></td></tr><tr><td>☐</td><td>監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d</td></tr><tr><td>☐</td><td>契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e</td></tr><tr><td>評価区分</td><td> </td></tr></table>	対 象		☐	監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d	☐	契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e	評価区分	
対 評 象 価																																											
<table><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table> 塗装する面が乾燥状態であることが確認できた。（重ね塗りの場合も含む） ケレンが入念に実施されていることが確認できた。 施工時の天候、気温及び湿度等の条件を整理・記録していた。 塗料を試用前に攪拌し、容器底部に顔料沈殿がしていないことが確認できた。 塗膜に有害な付着物が無かった。 塗料の空缶管理が、写真等で確実に確認できた。 その他 理由： 	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐																													
☐	☐																																										
☐	☐																																										
☐	☐																																										
☐	☐																																										
☐	☐																																										
☐	☐																																										
☐	☐																																										
対象項目数	_____	評価値が90%以上・・・・・・・・・・ a																																									
評価点合計	_____	評価値が80%以上～90%未満・・・・ b																																									
評価値	_____ %	評価値が60%以上～80%未満・・・・ c																																									
		評価値が60%未満・・・・・・・・・・ d																																									
評価区分		① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする																																									
対 象																																											
☐	監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d																																										
☐	契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e																																										
評価区分																																											
Ⅲ. 出来ばえ	<table><tr><td>対 評 象 価</td><td></td></tr><tr><td><table><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table>塗装の均一性が良かった。 細部まできめ細かな施工をしていた。 補修箇所が無かった。 ケレンの施工状況が良好であった。 全体的な美観が良かった。</td></tr><tr><td>対象項目数</td><td>_____</td><td>評価値が90%以上・・・・・・・・・・ a</td></tr><tr><td>評価点合計</td><td>_____</td><td>評価値が80%以上～90%未満・・・・ b</td></tr><tr><td>評価値</td><td>_____ %</td><td>評価値が60%以上～80%未満・・・・ c</td></tr><tr><td></td><td></td><td>評価値が60%未満・・・・・・・・・・ d</td></tr><tr><td>評価区分</td><td> </td><td>① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）</td></tr></table>	対 評 象 価		<table><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table> 塗装の均一性が良かった。 細部まできめ細かな施工をしていた。 補修箇所が無かった。 ケレンの施工状況が良好であった。 全体的な美観が良かった。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	対象項目数	_____	評価値が90%以上・・・・・・・・・・ a	評価点合計	_____	評価値が80%以上～90%未満・・・・ b	評価値	_____ %	評価値が60%以上～80%未満・・・・ c			評価値が60%未満・・・・・・・・・・ d	評価区分		① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）														
対 評 象 価																																											
<table><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table> 塗装の均一性が良かった。 細部まできめ細かな施工をしていた。 補修箇所が無かった。 ケレンの施工状況が良好であった。 全体的な美観が良かった。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐																																	
☐	☐																																										
☐	☐																																										
☐	☐																																										
☐	☐																																										
☐	☐																																										
対象項目数	_____	評価値が90%以上・・・・・・・・・・ a																																									
評価点合計	_____	評価値が80%以上～90%未満・・・・ b																																									
評価値	_____ %	評価値が60%以上～80%未満・・・・ c																																									
		評価値が60%未満・・・・・・・・・・ d																																									
評価区分		① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）																																									

(検査員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 ☐ ☐ 地区外の雨水等を遮断し、地区内への流入を防いでいた。 ☐ ☐ 現況表土厚、有効土層を確認していた。 ☐ ☐ 耕作に支障となる雑物、レキ等を適切に処理していた。 ☐ ☐ 表土扱いに当たり、基礎土を混入させないように注意し、集積した表土を所定の厚さに敷き均していた。 ☐ ☐ ほ場の基盤均平を入念に施工し、過転圧やこね返しが無かった。 ☐ ☐ 路体及び路床盛土に当たり、排水を考慮し、泥ねい化を防いでいた。 ☐ ☐ 路床の締め固めを適切に施工していた。 ☐ ☐ 路面の仕上り面は不陸がなく、横断勾配がついていた。 ☐ ☐ 敷砂利の厚みが均一に仕上がっていた。 ☐ ☐ コンクリート2次製品の種類、形状寸法、強度は設計図書どおりであった。 ☐ ☐ コンクリート2次製品に有害なひび割れ、損傷等が無かった。 ☐ ☐ 構造物の床掘り仕上げ面は不陸がなく、湧水処理を行っていた。 ☐ ☐ 管路の砂基礎の締め固めを十分に行っていた。 ☐ ☐ 埋戻し土の転圧が適切に行っていた。 ☐ ☐ 配管の各接合部は、規定の位置まで確実に挿入していた。 ☐ ☐ 暗渠排水工の被覆材は転圧されており、規定の厚さを確保していた。 ☐ ☐ 暗渠排水工の上層部埋戻しには表土を使用していた。 ☐ ☐ その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対 象 ☐ 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d ☐ 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分
	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 ☐ ☐ 基盤均平、埋戻しの仕上りが良かった。 ☐ ☐ 土羽の通りが良かった。 ☐ ☐ コンクリート2次製品の通りが良かった。 ☐ ☐ 既設構造物、地山とのすり付けが良かった。 ☐ ☐ 施工管理記録から不可視部分の出来映えの良さが確認できた。 ☐ ☐ 全体的な美観が良かった。 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

考 査 項 目 別 運 用 表

〔記入方法〕 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。（検 査 員）

検査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象評価 雨水による崩壊が起こらないように排水対策を実施していた。 掘削床付け面が乱されずに掘削されていた。また、浮石等が無かった。 埋戻し（盛土）を行うに当たり、締め固めを適正な条件で施工していた。 掘削（山留）内の排水処理が適切に行われていることが確認できた。 ウエルポイント、ディープウエル等の排水量及び地下水位管理を適切に行っていた 腹起こしの設置に当たり、土留め壁との間に隙間がないことが確認できた。 裏込め材注入圧力は、低圧で施工していること等が施工記録により確認できた。 日々の計測管理を行っており、それに基づいた施工が行われていることが確認できた。 管渠又は覆工コンクリート等から漏水が無かった。 管渠又は覆工コンクリート等にクラックの発生が無かった。 掘進機に裏込め材流出防止のための装置が装着されていた。 舗装工において、設計図書に基づく混合物の配合設計及び試験練りを行っており、適切な混合物の規格が確認できた。 混合物の温度管理が、プラント出荷時・現場到着時・舗設時等に整理・記録していた。 舗設後、直ちに供用する必要がある現場で、交通開放を適切に行っていた。 舗設の各層の継ぎ目が仕様書に定められた数値以上ずらしていた。 目地の処理が仕様書に定められた通りであることが確認できた。 その他 <u>理由：</u> 対象項目数 _____ 評価値が90％以上・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80％以上～90％未満・・・b 評価値 _____％ 評価値が60％以上～80％未満・・・c 評価値が60％未満・・・d 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする コンクリートブロック張等にクラックがある場合、進行性又は有害なクラックは無く、発生したクラックに適切な処置を行っている。 上記該当があれば・・・c	対象 監督員が文書で改善指示を行った。 クラックがある場合、進行性又は有害なクラックはないが、発生したクラックに適切な処置を行っていないかった。 上記該当があれば・d 進行性又は有害なクラックがあった。 上記該当があれば・e 評価区分
	Ⅲ. 出来ばえ	対象評価 切土、埋戻、盛土の仕上り状況が良かった。 インパートの仕上りが良かった。 管口の処理が良かった。 管渠の通りが良かった。 舗装の平坦性が良く、水溜まり等が生じなかった。 舗装の構造物へのすり付け等が良かった。 排水施設の蓋のがたつきがなく、受枠にゴミがたまっていなかった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 _____ 評価値が90％以上・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80％以上～90％未満・・・b 評価値 _____％ 評価値が60％以上～80％未満・・・c 評価値が60％未満・・・d 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

(検査員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目																																		
		一 般 事 項	特 殊 事 項																																	
3. 出来形及び出来ばえ	II. 品質	対 評 象 価 <table border="1"> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> </table> 材料の品質規格証明書を整備していた。 セグメントを仕様書・製作要領書に基づいて製作していた。 セグメントに損傷及び補修痕が無かった。 セグメント組立時に目違い、異物の挟み込み等に注意し丁寧に組立を行い、所定のトルクでボルトが締め付けられていることが確認できた。 セグメント組立後、真円保持装置を使用し形状確保に努めていた。 セグメント接手面シール等の防水工が、仕様書に基づき適切に施工され、漏水が無かった。 施工後のコンクリート系セグメントにクラックの発生及び欠けが無かった。 仕様書等で定められている品質管理を実施していた。 スチールフォーム等の取り外しに関して適正に管理していた。 施工に先立ち配合試験を行い、コンクリートの品質向上に取り組んでいた。 コンクリートの現場養生を、仕様書等の規定に従い適切に実施していた。 二次覆工コンクリートにクラックの発生が無かった。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・c 評価値が60%未満・・・・・・・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする																															対 象 <table border="1"> <tr><td></td></tr> <tr><td></td></tr> <tr><td></td></tr> </table> 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分			
	III. 出来ばえ	対 評 象 価 <table border="1"> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> </table> シールドトンネル構造物の通りが良かった。 コンクリート系セグメントの表面に補修箇所がなく肌が良い。又は、鋼製セグメントの有害な変形がなく、溶接箇所等に亀裂が無かった。 漏水が無かった。 既設構造物とのすりつけが良かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・c 評価値が60%未満・・・・・・・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）																																		

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。 (検 査 員)

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 材料の品質規格証明書を整備していた。 遠心力鉄筋コンクリート管等にクラックの発生及び欠損が無かった。 管の継手部が適切に施工され漏水が無かった。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） コンクリートブロック張等にクラックがある場合、進行性又は有害なクラックは無く、発生したクラックに適切な処置を行っていた。 上記該当があれば・・・c	対 象 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・・・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・・・e 評価区分
	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 管口の通りが良かった。 クラックが無かった。 漏水が無かった。 管目地、注入孔の仕上げが良かった。 管口の仕上げが良かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目		
		一 般 事 項	特 殊 事 項	
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象評価 材料の品質規格証明書を整備していた。 施工管理の記録を整備していた。 障害物の処理を適正に行っていた。 形成管の物性試験の結果が確認できた。 その他 理由： 対象項目数 評価点合計 評価値 評価値が90%以上 評価値が80%以上～90%未満 評価値が60%以上～80%未満 評価値が60%未満 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 対象 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分	Ⅲ. 出来ばえ	対象評価 きめ細かな施工がなされており、傷又は補修痕が無かった。 管口の仕上げが良かった。 真円度が良かった。 嵌合、融着の状態が良かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 評価点合計 評価値 評価値が90%以上 評価値が80%以上～90%未満 評価値が60%以上～80%未満 評価値が60%未満 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）

(検査員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形 及び 出来ばえ	II. 品質	対 評 象 価 ☐☐ 仕様書で定められている品質管理を実施していた。 ☐☐ 材料の品質規格証明書を整備していた。 ☐☐ 下地処理が入念に施工されていることが確認できた。 ☐☐ 気温・湿度の条件が仕様書の制限を満足していた。 ☐☐ 塗残り、気泡、むら、たれ等の欠陥が無かった。 ☐☐ 塗膜に有害な付着物が無かった。 ☐☐ ガラスクロスを重ね代が適正に施工されていることが確認できた。 ☐☐ 各層での仕上状態が確認できた。 ☐☐ その他 <u>理由：</u> 対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 _____ _____ _____ % 評価値が90%以上・・・・・・・・・ a 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・・・・ d ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対 象 ☐ 監督員が文書で改善指示を行った、 上記該当があれば・d ☐ 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分
	III. 出来ばえ	対 評 象 価 ☐☐ 塗装の均一性が良かった。 ☐☐ 細部まできめ細かな施工をしていた。 ☐☐ 端部処理が良かった。 ☐☐ 補修箇所が無かった。 ☐☐ 全体的な美観が良かった。 対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 _____ _____ _____ % 評価値が90%以上・・・・・・・・・ a 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・・・・ d ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

考 査 項 目 別 運 用 表

〔記入方法〕 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。

（検 査 員）

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目		特 殊 事 項
		一 般 事 項		
3. 出来形 及び 出来ばえ	II. 品質	対 評 象 価	雨水による崩壊が起こらないように排水対策を実施していた。 掘削床付け面が乱されずに掘削されている。また、浮石等が無かった。 埋戻し（盛土）を行うに当たり、締め固めを適正な条件で施工していた。 掘削（山留）内の排水処理が適切に行われていることが確認できた。 ウェルポイント、ディープウェル等の排水量及び地下水位管理を適切に行っていた 腹起こしの設置に当たり、土留め壁との間に隙間がないことが確認できた。 設計図書に基づくコンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、適切なコン クリートの規格が確認できた。 コンクリート打設時に必要な供試体採取し、強度・スランプ・空気量等が確認で きた。 コンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できた。 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のバイブレー タの機種、養生方法等、適切に施工していた。 型枠、支保工の取り外し時のコンクリート強度を適正に管理していた。 鉄筋の規格がミルシートで確認できた。 コンクリート打設までの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できた。 鉄筋の組立・加工が適正であることが確認できた。 圧接作業に当たり、作業員の技量確認を行っていた。 スパーサー材質が適正で、品質が確認できた。 スパーサーを適切に配置し、鉄筋の破りを確保していた。 鉄筋のガス圧接部の状態の強度確認試験、外観検査を適正に行っていた。 鉄筋の継ぎ手長、定着長を適切に管理していた。 鉄筋圧接の位置が設計図書に準じており、かつ圧接位置が、千鳥に配置されている ことが、写真で確認できた。 SD295とSD345の使用区分が明確になっており、写真で確認できた。 杭に損傷、及び補修痕が無かった。 杭の打ち止め管理方法又は場所打ち杭の施工管理方法等が整備され、かつ記録が確 認できた。 水平度、安全度、鉛直度等が確認できた。 溶接の品質管理に関して仕様書に定められた事項が確認できた。 場所打ち杭について、トレミー管をコンクリート内に2 m以上入れて施工している ことが確認できた。 掘削深度、抽出土砂、孔内水位の変動及び安全液を用いる場合の孔内の安定液濃度 、比重等を適切に管理していた。 ライナープレートの組立にあたって、偏心と歪みが少なくなるよう配慮していた。 裏込め材注入の圧力等が施工記録により確認できた。 漏気試験を実施し圧力配管の気密性が確認できた。 その他 <u>理由：</u> 対象項目数 _____ 評価値が90％以上・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80％以上～90％未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60％以上～80％未満・・・・ c 評価値が60％未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする コンクリートブロック張等にクラックがある場合、進行性又は有害なクラックは無 く、発生したクラックに適切な処置を行っていた。 上記該当があれば・・・ c	対 象 ☐ 監督員が文書で改善 指示を行った。 ☐ クラックがある場合 、進行性又は有害な クラックはないが、 発生したクラックに 適切な処置を行って いなかった。 上記該当があれば・ d ☐ 進行性又は有害なク ラックがあった。 上記該当があれば・ c 評価区分
	III. 出来ばえ	対 評 象 価	切土、埋戻、盛土の仕上り状況が良い。また沈下等が無かった。 基礎工について、施工管理記録等から不可視部分の出来映えの良さが伺えた。 コンクリート構造物の肌が良かった。 コンクリート構造物の通りが良かった。 天端仕上げ、端部仕上げ等が良かった。 スラブ上に水溜まりが生じない配慮があった。 クラックが無かった。 漏水が無かった。 防食塗装の端部、突起部等の処置が良かった。 足掛け金物等が等間隔、水平、所定の埋込長で施工していた。 開口部の蓋が開閉作業がスムーズに行えた。 角落しがスムーズに設置、撤去できた。 フェンスのがたつきが無く、通りが良かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 _____ 評価値が90％以上・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80％以上～90％未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60％以上～80％未満・・・・ c 評価値が60％未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目		
		一 般 事 項	特 殊 事 項	
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 【躯体工事】 施工計画書に適切な品質計画を定めており、適正に管理していた。 施工の品質・形状が適切で、良好な施工であった。 品質計画による品質管理記録が整備され、材料の品質証明も適切であった。 不可視部分の写真記録が適切であった。 品質管理方法が明確で、品質確保に創意工夫があった。 その他 理由： _____ 【仕上工事】 施工計画書に適切な品質計画を定めており、適正に管理していた。 施工の品質・形状が適切で、良好な施工であった。 品質計画による品質管理記録が整備され、材料の品質証明も適切であった。 不可視部分の写真記録が適切であった。 品質管理方法が明確で、品質確保に創意工夫があった。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価点合計 _____ 評価値 _____ % 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 対 象 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 きめ細かな施工がなされ、取り合いの納まりや端部まで仕上がり良かった。 既存部分や関連工事との調整がなされ、調和が良い仕上がりであった。 使い勝手や使用者の安全に対する配慮が適切であった。 仕上がりの状態が良好で、色むら等がなかった。 室内の塵芥処理等が適切に行われ、良質な施工であった。 外構を含め、全体的な美観が良好であった。 対象項目数 _____ 評価点合計 _____ 評価値 _____ % 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目		
		一 般 事 項	特 殊 事 項	
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 施工計画書に適切な品質計画を定めており、適正に管理していた。 施工の品質・形状が適切で、良好な施工であった。 品質計画による品質管理記録が整備され、材料の品質証明も適切であった。 不可視部分の写真記録が適切であった。 品質管理方法が明確で、品質確保に創意工夫があった。 その他 理由： 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価値が90%以上 評価値が80%以上～90%未満 評価値が60%以上～80%未満 評価値が60%未満 a b c d 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 対 象 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 きめ細かな施工がなされ、取り合いの納まりや端部まで仕上がり良かった。 既存部分や関連工事との調整がなされ、全体に調和が良い仕上がりであった。 使い勝手や使用者の安全に対する配慮が適切であった。 仕上がりの状態が良好であった。 室内の塵芥処理等が適切に行われ、良質な施工であった。 対象項目数 評価点合計 評価値 % 評価値が90%以上 評価値が80%以上～90%未満 評価値が60%以上～80%未満 評価値が60%未満 a b c d 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目																												
		一 般 事 項	特 殊 事 項																											
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象 評価 <table><tr><td>☐</td><td>☐</td><td rowspan="8">機材の品質及び形状が、設計図書等に適合する証明書どおり整備していた。 製造者による試験を的確に行っていた。 施工の品質・形状が適切で、良好な施工であった。 機能の適切性が確認でき、試運転等の記録を整備していた。 品質計画による品質管理記録を整備していた。 不可視部分の写真記録が適切であった。 施工時における品質確保の為に、創意工夫が見られた。 その他 <u>理由：</u></td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table> 対象項目数 <u> </u> 評価点合計 <u> </u> 評価値 <u> </u> % 評価値が90%以上・・・・・・・・・ a 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 対象 ☐ 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d ☐ 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分	☐	☐	機材の品質及び形状が、設計図書等に適合する証明書どおり整備していた。 製造者による試験を的確に行っていた。 施工の品質・形状が適切で、良好な施工であった。 機能の適切性が確認でき、試運転等の記録を整備していた。 品質計画による品質管理記録を整備していた。 不可視部分の写真記録が適切であった。 施工時における品質確保の為に、創意工夫が見られた。 その他 <u>理由：</u>	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	Ⅲ. 出来ばえ	対象 評価 <table><tr><td>☐</td><td>☐</td><td rowspan="4">きめ細かな施工がなされ、取り合いの納まりや端部までの仕上がり良かった。 関連工事との調整がなされ、全体に調和が良い仕上がりであった。 使用者に対する安全及び保守点検に対する配慮が適切であった。 建築設備としての十分な性能を確保していた。</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>☐</td><td>☐</td></tr></table> 対象項目数 <u> </u> 評価点合計 <u> </u> 評価値 <u> </u> % 評価値が80%以上・・・・・・・・・ a 評価値が60%以上～80%未満・・・・ b 評価値が40%以上～60%未満・・・・ c 評価値が40%未満・・・・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	☐	☐	きめ細かな施工がなされ、取り合いの納まりや端部までの仕上がり良かった。 関連工事との調整がなされ、全体に調和が良い仕上がりであった。 使用者に対する安全及び保守点検に対する配慮が適切であった。 建築設備としての十分な性能を確保していた。	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	機材の品質及び形状が、設計図書等に適合する証明書どおり整備していた。 製造者による試験を的確に行っていた。 施工の品質・形状が適切で、良好な施工であった。 機能の適切性が確認でき、試運転等の記録を整備していた。 品質計画による品質管理記録を整備していた。 不可視部分の写真記録が適切であった。 施工時における品質確保の為に、創意工夫が見られた。 その他 <u>理由：</u>																											
☐	☐																													
☐	☐																													
☐	☐																													
☐	☐																													
☐	☐																													
☐	☐																													
☐	☐																													
☐	☐	きめ細かな施工がなされ、取り合いの納まりや端部までの仕上がり良かった。 関連工事との調整がなされ、全体に調和が良い仕上がりであった。 使用者に対する安全及び保守点検に対する配慮が適切であった。 建築設備としての十分な性能を確保していた。																												
☐	☐																													
☐	☐																													
☐	☐																													

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象評価 解体工法・手順に創意工夫があった。 施工計画書に定められた解体計画により管理していた。 廃材の分別・保管に創意工夫があった。 管理記録を整備していた。 不可視部分の写真記録が適切であった。 有害物の処理を適切に行っていた。 その他理由： 対象項目数 評価値が90%以上・・・・・・・・a 評価点合計 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・・・・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 対象 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分	
	Ⅲ. 出来ばえ	対象評価 撤去跡を平坦に整地していた。 土中に撤去対象物や廃材が無かった。 周辺の道路、肩石、側溝、集水桝、人孔等に破損が無かった。 集水桝の流入側の閉鎖等を適切に行っていた。 一部撤去等において存置部分との調整を行い、全体に調和が良い仕上げであった。 その他理由： 対象項目数 評価値が90%以上・・・・・・・・a 評価点合計 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 % 評価値が60%以上～80%未満・・・c 評価値が60%未満・・・・・・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	【 工事】 対象項目数 評価点合計	評価区分
		【 工事】 対象項目数 評価点合計	評価区分
		【 工事】 対象項目数 評価点合計	評価区分
		合 計 対象項目数 _____ 評価点合計 _____ 評価値 _____ % 評価区分	評価値が90%以上・・・・・・ a 評価値が80%以上～90%未満・・・ b 評価値が60%以上～80%未満・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・ d ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする
	Ⅲ. 出来ばえ	【 工事】 対象項目数 評価点合計	
		【 工事】 対象項目数 評価点合計	
		【 工事】 対象項目数 評価点合計	
		合 計 対象項目数 _____ 評価点合計 _____ 評価値 _____ % 評価区分	評価値が90%以上・・・・・・ a 評価値が80%以上～90%未満・・・ b 評価値が60%以上～80%未満・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・ d ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。（検 査 員）

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目		特 殊 事 項
		一 般 事 項		
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 【管路布設】 床付面の地耐力が資料により確認できた。 床付面の目視及び平坦性が資料により確認できた。 管路の形状及び外観を目視及び打音によりの確に実施されていることが資料により確認できた。 管路（上記以外）の品質が、工場管理資料によりの確に確認できた。 管路の導通試験を実施しているか確認できた。 【土 工】 雨水による崩壊が起らないように排水対策を実施していた。 掘削床付け面が乱されずに掘削されていた。また、浮石等が無かった。 埋戻し（盛土）を行うに当たり、締め固めを適正な条件で施工していた。 掘削（山留）内の排水処理が適切に行われていることが確認できた。 ウェルポイント、ディープウェル等の排水量及び地下水位管理を適切に行っていた 腹起こしの設置に当たり、土留め壁との間に隙間がないことが確認できた。 裏詰め材注入圧力は、低圧で施工していること等が施工記録により確認できた。 【舗 装】 舗装工において、設計図書に基づく混合物の配合設計及び試験練りを行っており、適切な混合物の規格が確認できた。 混合物の温度管理が、プラント出荷時・現場到着時・舗設時等に整理・記録していた。 舗設後、直ちに供用する必要のある現場で、交通開放を適切に行っていた。 舗設の各層の継ぎ目が仕様書に定められた数値以上ずらしていた。 目地の処理が仕様書に定められた通りであることが確認できた。 その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・c _____ 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対 象 ☐ 監督員が文書で改善指示を行った、 上記該当があれば・d ☐ 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e 評価区分	
	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 管路の割れ、カケがなかった。 継ぎ手面にパッキンの設置が確実になされていた。 管路間の目違い、段差が少なかった。 管路継ぎ手部ボルトの締め付け状況が良かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・c _____ 評価値が60%未満・・・d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）		

(検査員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 ☐☐ 仮設材にそり、ゆがみ、傷がなかった。 ☐☐ 仮設材の組み立て、設置が確実になされ、かつ点検も行われていた。 ☐☐ 周辺環境（騒音・振動・地盤変動等）に配慮した施工方法で実施していた。 ☐☐ 施工記録等により、設計条件に適合した根入れ長で施工されていることが確認できた。 ☐☐ 排水を考慮し、良好な床付け面を確保していた。 ☐☐ その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対 象 ☐ 監督員が文書で改善指示を行った、 上記該当があれば・ d ☐ 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・ c 評価区分
	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 ☐☐ 鋼矢板・親杭の通りが良かった。 ☐☐ 蓋工板にがたつきがなかった。 ☐☐ 鋼矢板のかみ合わせ等不良部分がなかった。 ☐☐ 床付け面の仕上げが良かった。 ☐☐ 全体的な美観が良かった。 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

(検査員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形 及び 出来ばえ	II. 品質	対 評 象 価 ☐ ☐ 仕様書等で定められている品質管理が実施された。 ☐ ☐ 材料の品質規格証明書が整備されていた。 ☐ ☐ 法面等が平滑に仕上げられていることが確認できた。 ☐ ☐ 雨水による崩壊防止対策、流入水等の排水対策が適切に実施されていることが確認できた。 ☐ ☐ 基礎基盤の整形、清掃、湧水処理が適切に実施されていることが確認できた。 ☐ ☐ 段切り等が施工前に設計図書に基づき適切に施工されていることが確認できた。 ☐ ☐ 盛土材料は指定する区域から採取計画に基づき採取し、有害物の除去、含水比等について適切な管理がなされていることが確認できた。 ☐ ☐ 刃金土は仕様書等に基づき適切な施工がなされ、締め固め密度も規格値を余裕をもって満足していることが確認できた。 ☐ ☐ 鉄筋の組み立て、継ぎ手部、かぶりとは設計図書に示されたとおりに施工していることが確認できた。 ☐ ☐ コンクリート供試体が当該現場のものであることが確認できた。 ☐ ☐ 堤体に接する構造物周辺の盛土、梅戻土の施工にあたり、コンクリートが所定の強度に達したことが確認してから施工していることが確認できた。 ☐ ☐ 旧施設の取り壊し、撤去にあたり形状・寸法が確認できるよう管理するとともに、残存する場合は漏水の原因とならないよう適切な処置がなされていることが確認できた。 ☐ ☐ その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	対 象 ☐ 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・ d ☐ 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・ c 評価区分
	III. 出来ばえ	対 評 象 価 ☐ ☐ 土工の仕上げが良かった。 ☐ ☐ 土工の通りが良かった。 ☐ ☐ 土工の構造物へのすりつけが良かった。 ☐ ☐ 吹き付け（植生、コンクリート等）の状態が均一であった。 ☐ ☐ コンクリート構造物の肌が良かった。 ☐ ☐ コンクリート構造物の通りが良かった。 ☐ ☐ 天端仕上げ、端部仕上げが良かった。 ☐ ☐ クラックが無かった。 ☐ ☐ 漏水が無かった。 ☐ ☐ 施設の通りが良かった。（排水側溝、フェンス等） ☐ ☐ 全体的な美観が良かった。 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

(検査員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形 及び 出来ばえ	II. 品質	対 評 象 価 ☐ ☐ 仕様書等で定められている品質管理が実施されていた。 ☐ ☐ 材料の品質規定証明書が整備されていた。 ☐ ☐ 各工種の施工に適した法面整形、階段切り付けが行われており、障害となる根株、転石等が除去されていた。 ☐ ☐ 雨水等による崩落を防止するため排水対策が実施されていた。 ☐ ☐ 端部における地山とのすりつけにきめ細かい注意が同えた。 ☐ ☐ 植生の生育に配慮した丁寧な施工がなされていた。 ☐ ☐ 植栽木に損傷や病害虫がなく、植栽、施肥の施工にあたり、苗木の生育に配慮した丁寧な施工がなされていた。 ☐ ☐ 背面土の流失防止に配慮した施工がなされていた。 ☐ ☐ 各工種の特徴、要点を理解し、施工に創意工夫が見られた。 ☐ ☐ その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対 象 ☐ 監督員が文書で改善指示を行った、 上記該当があれば・d ☐ 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e 評価区分
III. 出来ばえ	対 評 象 価 ☐ ☐ 通りが良かった。 ☐ ☐ 材料の連結、かみ合わせが良かった。 ☐ ☐ 構造物へのすり付けが良かった。 ☐ ☐ 全体的な美観が良かった。 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）		

(検査員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形 及び 出来ばえ	Ⅱ. 品質	対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 適正な掘削断面を確保していた。 掘削床付け面が乱されずに掘削されていた。また、浮石等が無かった。 埋戻し（盛土）を行うに当たり、締め固めを適正な条件で施工していた。 掘削（山留）内の廃水処理が適切に行われていることが確認できた。 腹越しの設置に当たり、土留め壁との間に間隙がないことが確認できた。 管の据え付けは、管内部の清掃を十分に行い、管損傷がないよう適切に据え付けていた。 管の接続は、仕様書に定められたとおり行われていた。 鋼管溶接工は、技能と実施経験を有するものに行わせていた。 水圧試験により、管路の異常の有無及び圧力の変化（漏水量）を確認していた。 弁栓類が適正に操作出来るよう配管されていた。 弁栓類のボックスにずれ等が無く、蓋のガタツキも無かった。 舗装工において、設計図書に基づく混合物の配合設計及び試験練りを行っており、適切な混合物の規格が確認できた。 混合物の温度管理が、プラント出荷時・現場到着時・舗設時等に整理・記録していた。 舗設後、直ちに供用する必要のある現場で、交通開放を適切に行っていた。 舗設の各層の継ぎ目が、仕様書に定められた数値以上ずらしていた。 仮復旧後の路面表示が、仕様書に定められたとおり表示されていることが確認できた。 その他 理由： 対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・・・・ d ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e 評価区分
	Ⅲ. 出来ばえ	対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 掘削、埋戻しの仕上がり状況が良かった。 管口、切管の処理が良かった。 管路の通りが良かった。 舗装の平坦制が良く、水溜まり等が生じなかった。 舗装の構造物へのすり付け等が良かった。 弁栓類の蓋のガタツキが無く、受枠にゴミが溜まっていなかった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 評価点合計 評価値 評価区分 対象項目数 _____ 評価値が80%以上・・・・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が60%以上～80%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が40%以上～60%未満・・・・ c 評価値が40%未満・・・・・・・・・ d ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

(検査員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 【 共 通 】 ☐ 仕様書等で定められている品質管理が実施されていた。 ☐ 材料の品質規定証明書が整備されていた。 ☐ J I S規格外品について、仕様書で規定する規格、品質を満足していた。 ☐ 基礎基礎の整形、清掃、湧水処理等が適切に実施されていることが確認できた。 ☐ 二次製品の保管、吊り込み、据え付け等に十分注意を払っていることが確認できた。 ☐ 土留め、ウエルポイント等の仮設が設計図書に基づき適切に施工・管理されていることが確認できた。 ☐ その他 理由： _____ 【 擁壁類 】 ☐ 胴込コンクリート、裏込材の充填が十分に空隙が生じていなかった。 ☐ 基礎コンクリート及び天端等の調整コンクリートにクラック等の欠陥がなかった。 ☐ 材料の連結又はかみ合わせが適切であることが確認できた。 ☐ 端部における地山とのすりつけが適切であった。 ☐ 丁張りを2重、3重に設けるなど、法勾配、裏込め材の厚さの確保のため細心の注意を払っていた。 ☐ コンクリート板擁壁工の施工にあたり、ソイルコンクリートの配合、練混ぜ、打込み、締め固め及び養生が適切に行われていた。 ☐ その他 理由： _____ 【 用排水施設 】 ☐ 位置、方向、高さ、勾配等について前後の施設又は地形になじみよく施工されていた。 ☐ 不等沈下防止に配慮して、基礎地盤の締め固めが特に入念に行われていた。 ☐ 呑口、吐口、集水桝等の取付コンクリートにクラック等の欠陥がなかった。 ☐ 施設の流末は浸食、滞留等が生じないよう処理されていた。 ☐ 不等沈下の発生が無く、基礎コンクリートの亀裂や継目部からの漏水も見られなかった。 ☐ 継目部の目地モルタルが適切に施工されていた。 ☐ 製品周辺の盛土、埋戻土の施工にあたり、巻出し、転圧が適切に施工されていた。 ☐ 製品の継目部には隙間、ズレがなく、適切に施工されていた。 ☐ その他 理由： _____ 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対 象 ☐ 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・ d ☐ 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・ e 評価区分
	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 ☐ きめ細かな施工がなされ、取り合いの納まりや端部まで仕上がり良かった。 ☐ 既存部分や関連工事との調整がなされ、調和が良い仕上がりであった。 ☐ 使い勝手や使用者の安全に対する配慮が適切であった。 ☐ 仕上がりの状態が良好で、色むら等がなかった。 ☐ 室内の塵芥処理等が適切に行われ、良質な施工であった。 ☐ 外構を含め、全体的な美観が良好であった。 対象項目数 _____ 評価値が90%以上・・・・・・・・・ a 評価点合計 _____ 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 _____ % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c 評価値が60%未満・・・・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（%）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

考 査 項 目 別 運 用 表

[記入方法] 該当項目の対象欄に「レ」を記入し、評価欄に点数（良い＝3、普通＝2、劣る＝1）を記入する。(検 査 員)

考查項目	細 別	評 価 対 象 項 目		
		一 般 事 項	特 殊 事 項	
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	対 評 象 価 盛土材料の土質が適正であった。 盛土の締め固めを適切な条件（人力機械別、巻出し厚、敷き均し、転圧作業等）で施工されていた。 プレキャスト製品・材料等の品質が工場管理資料より的確に確認できた。 現場条件に応じた排水対策が施工時を含め適切に講じられていた。 盛土の締め固め管理（密度等）が適切に実施されていることが確認できた。 その他 <u>理由：</u> 対象項目数 <u> </u> 評価点合計 <u> </u> 評価値 <u> </u> % 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする 対 象 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・e 評価区分 <tr><td>Ⅲ. 出来ばえ</td><td> 対 評 象 価 壁面材（コンクリート製品）の割れ・カケが無かった。 基礎上面の平坦性が良かった。 天端仕上げ、端部仕上げ等が良かった。 壁面材の目違い、段差が少なく構造物の通りが良かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 <u> </u> 評価点合計 <u> </u> 評価値 <u> </u> % 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） </td></tr>	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 壁面材（コンクリート製品）の割れ・カケが無かった。 基礎上面の平坦性が良かった。 天端仕上げ、端部仕上げ等が良かった。 壁面材の目違い、段差が少なく構造物の通りが良かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 <u> </u> 評価点合計 <u> </u> 評価値 <u> </u> % 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）
	Ⅲ. 出来ばえ	対 評 象 価 壁面材（コンクリート製品）の割れ・カケが無かった。 基礎上面の平坦性が良かった。 天端仕上げ、端部仕上げ等が良かった。 壁面材の目違い、段差が少なく構造物の通りが良かった。 全体的な美観が良かった。 対象項目数 <u> </u> 評価点合計 <u> </u> 評価値 <u> </u> % 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）		

(検査員)

考査項目	細 別	評 価 対 象 項 目	
		一 般 事 項	特 殊 事 項
3. 出来形及び出来ばえ	II. 品質	対 評 象 価 ☐ 木材・木製品の品質が良好で、設計図書に基づき適切に施工されていた。仕様書で定められている品質管理が実施されていた。 ☐ 組み立て等のボルト等の締め付けが確認できた。 ☐ 木材・木製品どうしの接続が良好で、規定通り施工されていた。 ☐ 部品・材料等の品質及び形状が、設計図書等との適切性が確認できた。 ☐ 木材・木製品による地山及び構造物との取り合い又はすり付けが、良好に施工されていた。 ☐ その他 <u>理由：</u> 対象項目数 <u> </u> 評価値が90%以上・・・・・・・・・ a 評価点合計 <u> </u> 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 <u> </u> % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c <u> </u> 評価値が60%未満・・・・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3） ② 対象項目数が2以下の場合はc評価とする	対 象 ☐ 監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当があれば・d ☐ 契約書第16条2項に基づき破壊検査を行った。 上記該当があれば・c 評価区分
	III. 出来ばえ	対 評 象 価 ☐ 通りがよく、バランスが保たれていた。 ☐ 金具等規格にあったものが使用され、統一性が良かった。 ☐ 形状・寸法等が確保され、統一性が良かった。 ☐ コンクリート構造物へのすり付け等が良かった。 ☐ 地山への密着性が確保され、仕上がりが良かった。 ☐ 全体的な美観が良かった。 対象項目数 <u> </u> 評価値が90%以上・・・・・・・・・ a 評価点合計 <u> </u> 評価値が80%以上～90%未満・・・・ b 評価値 <u> </u> % 評価値が60%以上～80%未満・・・・ c <u> </u> 評価値が60%未満・・・・・・・・・ d 評価区分 ① 評価値（％）＝評価点合計／（対象項目数×3）	

課 主任監督員：

[illegible]

[illegible]

[illegible]

様式第 4

(公 印 省 略)

平成 年 月 日

請負者
代表者

様

宝塚市長 中川智子

工 事 成 績 評 定 通 知 書

貴社が受注した工事について、工事成績評定要領に基づき評定した結果を通知します。なお、評定の結果に疑問があるときは、当市に対してその疑問の旨を付して、この書面を受けた日から起算して14日(休日を含む)以内に書面により、説明を求めることができます。

疑問の旨に対する説明は、書面により送付します。

なお、説明を求める場合の書面の送付先及び手続等についての問い合わせ先は下記のとおりです。

記

1. 工 事 名

2. 工 期 平成 年 月 日～平成 年 月 日

3. 完成検査年月日 平成 年 月 日

4. 成 績 評 定 評定点 点
(項目別評定点は、別表1のとおり)

5. 送付先及び問い合わせ先

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号
宝塚市役所 総務部行政管理室契約課
TEL 0797-71-1141 内線 2069

別表 1

土 木 工 事 成 績 評 定 表

施工年度	平成 年度	工事番号	
工 事 名			
施工場所			
請負者名			
契約金額			
工 期	～		
完成年月日		検査年月日	
考查項目	細 別	評定点/満点	
1.施工体制	Ⅰ.施工体制一般 Ⅱ.配置技術者	点／ 4.5 点／ 5.7	
2.施工状況	Ⅰ.施工管理 Ⅱ.工程管理 Ⅲ.安全対策 Ⅳ.対外関係	点／ 13.0 点／ 14.0 点／ 15.8 点／ 5.3	
3.出来形及び出来ばえ	Ⅰ.出来形 Ⅱ.品 質 Ⅲ.出来ばえ	点／ 15.6 点／ 17.6 点／ 8.5	
4.法令遵守等			
評 価 点 合 計		点／ 100	

別表 1

建 築 工 事 成 績 評 定 表

施工年度	平成 年度	工事番号	
工 事 名			
施工場所			
請負者名			
契約金額			
工 期	～		
完成年月日		検査年月日	
考查項目	細 別	評定点/満点	
1.施工体制	Ⅰ.施工体制一般 Ⅱ.配置技術者	点／ 4.9 点／ 6.9	
2.施工状況	Ⅰ.施工管理 Ⅱ.工程管理 Ⅲ.安全対策 Ⅳ.対外関係	点／ 16.3 点／ 14.4 点／ 16.6 点／ 6.1	
3.出来形及び出来ばえ	Ⅰ.品 質 Ⅱ.出来ばえ	点／ 23.3 点／ 11.5	
4.法令遵守等			
評 価 点 合 計		点／ 100	

様式第5

(公印省略)

平成 年 月 日

請負者

代表者

様

宝塚市長 中川智子

工事成績評定に係る説明書（回答）

平成 年 月 日付けで貴社から説明を求められました評定内容について
下記のとおり回答します。

本説明書に関して疑問があるときは、当市に対してその疑問の旨を付して
この書面を受けた日から起算して14日(休日を含む)以内に書面により、再説明
を求めることができます。

なお、再説明は市に設けられた宝塚市工事成績評定審査委員会の審議を経た
上で行い、疑問の旨に対する再説明は、書面により郵送します。

また、再説明を求める場合の書面の送付先及び手続等についての問い合わせ
先は下記のとおりです。

記

1. 工 事 名

2. 疑問に対する回答

3. 送付先及び問い合わせ先

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号
宝塚市役所 総務部行政管理室契約課
TEL 0797-71-1141 内線 2069

様式第6

(公印省略)

平成 年 月 日

請負者

代表者

様

宝塚市長 中川智子

工事成績評定修正通知書

貴社が受注した工事について、工事成績評定要領に基づき評定を修正した結果を通知します。なお、評定の結果に疑問があるときは、当市に対してその疑問の旨を付して、この書面を受けた日から起算して14日(休日を含む)以内に書面により、説明を求めることができます。

疑問の旨に対する説明は、書面により送付します。

なお、説明を求める場合の書面の送付先及び手続等についての問い合わせ先は下記のとおりです。

記

1. 工 事 名

2. 工 期 平成 年 月 日～平成 年 月 日

3. 完成検査年月日 平成 年 月 日

4. 成 績 評定 評定点 点
(項目別評定点は、別表1のとおり)

5. 送付先及び問い合わせ先

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号
宝塚市役所 総務部行政管理室契約課
TEL 0797-71-1141 内線 2069

様式第7

工 事 成 績 評 定 点 一 覧 表

年 月公表分

	契約日	工事名	工事場所	請負者	契約金額	評定点	備考
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							